

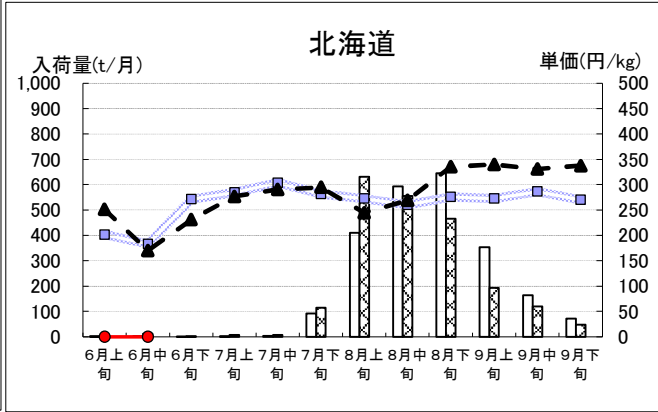
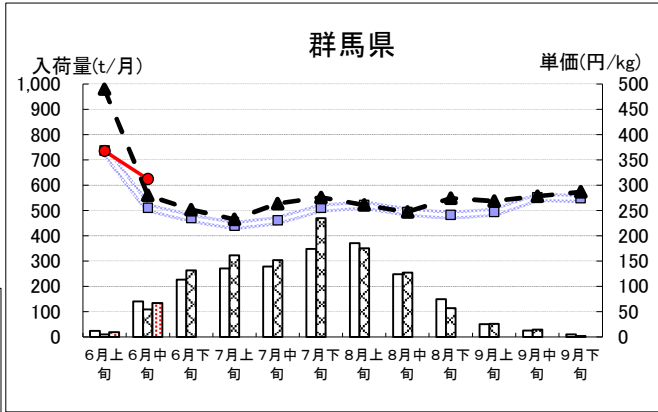
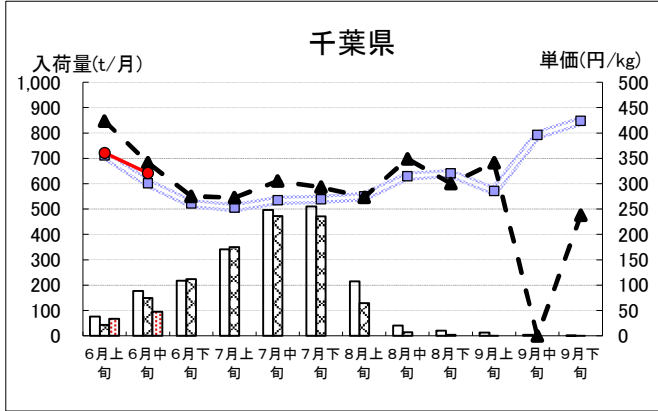
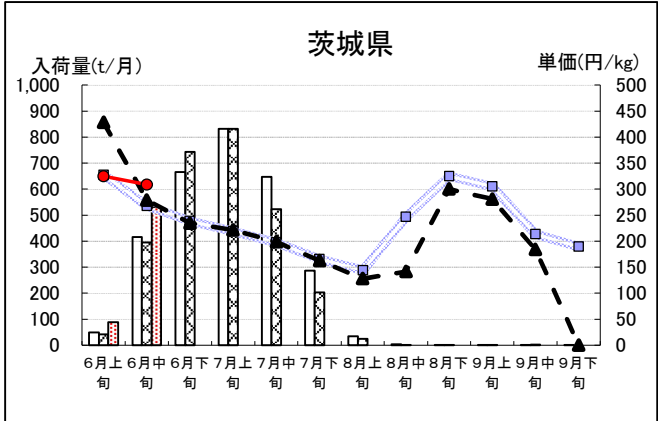
3 今月の青果物

とうもろこし

主要産地のとうもろこしの入荷量(東京都中央卸売市場)

産地	2025年度7月入荷量	2025年度7月シェア率
茨城県	1,559 t	34.2 %
千葉県	1,294 t	28.4 %
群馬県	1,095 t	24.0 %
北海道	130 t	2.8 %

7月入荷予測	4,500t(前年比98.7%、平年比96.3%)		
7月価格予測	250円(前年比98.8%、平年比106.7%)		
7月市況予測	(上旬) 強保合 ↗	(中旬) 強保合 ↗	(下旬) 保合 ⇒



今後の競合産地の動向は？
とうもろこしは夏を告げる風物詩のような品目で、都中央卸売市場の入荷量を見ても、6月下旬から7月上旬ごろのピークに向けて増加し、その後は減少していきます。ピーク期の入荷量は茨城県産のシェアが大きいです。千葉県産はその後の7月中下旬にピークを迎え、その後は冷涼な群馬県、北海道へと産地リレーが進みます。

千葉県産は5月下旬から山武地域で出荷が始まり、その後、海匝地域の各産地の荷物も加わり、例年ならいざ出荷最盛期を迎えようという時期ですが、今年は6月3日に通過した台風6号及び6月27日から28日にかけて通過した台風7・8号の影響で倒伏が発生しています。倒伏による生育の遅延、受粉不良、茎の折損等で収穫の遅れや減収につながる見込みとなっています。

7月上旬時点ではとうもろこしは特売需要等で各量販店からの引き合いも強く、相場も堅調となっています。昔ながらの「ゴールドラッシュ」系以外にも、各種苗メーカーが食味に優れるさまざまな品種を開発しており、それらを店頭で見かける機会も増えました。家庭で焼きとうもろこしや炊き込みご飯はもちろん、飲食店でもつけ麺、かき氷等でとうもろこしをふんだんに使ったメニューを提供するお店も見受けられます。この機会に、旬の味覚を堪能してみてはいかがでしょうか？

